

科目名	家庭基礎
単元名	A 人の一生と家族・家庭及び福祉
内容のまとめ	(2)青年期の自立と家族・家庭

1 単元の目標

- (1) 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深める。
- (2) 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯発達の視点で青年期の課題と自立、他者との協力・共生の重要性を理解しているとともに自分らしいライフキャリアが実現できるよう家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。	・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、家族が互いに協力し合い、仕事と生活の調和を図りながら家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

【本校における生徒の実態】

本校は4つの専門工学科からなり、セラミック工学・産業デザイン工学科は1年生で、電子機械工学・電気工学科は2年生で家庭基礎を2単位履修している。また、2年電子機械工学・電気工学科の男女構成は、電気工学科に1名女子生徒が在籍しているのみである。

明るく元気で、気持ちの良い挨拶が自分からできる生徒が多く、課題研究や実習、ものづくり、資格取得、インターンシップなど、多様な学習活動に日々取り組んでいる。専門学科の学びや身に付けた知識・技術を仕事で活用したいと考え、就職を希望する者が約70%いる。自分が得意とする分野の職業を選ぶことで、自分自身の成長や地域社会への貢献につなげていきたいと考えている。

多くの生徒が希望する製造業の分野では人工知能が急速に発達し、仕事内容だけでなく社会のしくみや働き方を始めとする人々の生活全体が大きく変わろうとしている。社会がどのように変化しても、人々が自分らしいより良い生活を求めて日々過ごしていくことに変わりはない。近年の高卒求人は『超』売り手市場となっており本校のR6年度の求人倍率(1次募集)は30.4%と非常に高く、やり甲斐のある仕事を求めて選択できる状況にある。しかし、多くの企業の中から1社に絞り込むことは難しく、安易に「休暇が多い」、「夜勤がない」、

「大手企業」であることを理由にして進路先を決定している生徒も少なくない。

また、本校は男子生徒が多く、働く女性の視点で考えを深めることが難しい。更に、77%が核家族世帯であり、生活経験も乏しいため、壮年期・高齢期の過ごし方についてのイメージが持てていない。就職後の生き方や結婚・子育てと働き方、家族・家庭や社会とのかかわりなど、生涯を見通した生き方を考えるに至っていない。

【参考文献】

- ・「やりたい」「なりたい」から始めよう ～ライフデザインを知る・考える～ 岐阜県健康福祉部子ども・女性局子育て支援課
- ・内閣府「国民生活に関する世論調査」 令和3年度版：男女共同参画白書
- ・内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2019年度）
- ・高校生のライフプランニング 文部科学省

3 指導と評価の計画

単元	【ねらい】・学習活動	主 軸	課 時	備考（・評価規準、【 】は評価方法）
	単元を貫く課題 生涯を見通した自分らしいライフキャリアの実現に向けて、身につけておくことは何だろうか			
	2. 共に生きる家族 ～家族って何だろう～ 【ねらい】 家族・家庭の機能や意義、多様化する家族・家庭の在り方について理解することができる。			
1	・「Aさんにとっての家族」から家族の条件について考える。	主 ①		・多様な家族観や形態について理解を深め、将来の家族・家庭のあり方について考えようとしている。 【ワークシート】
2	・ライフサイクルと家族について理解する。 ・世帯構成の分類について理解する。 ・世帯構成の変化と産業社会の発展による家庭の機能に与えた影響について理解する。 ・振り返りを記入する。	知 ①	★	・時代とともに変化する家族・家庭の特徴や機能について理解している。 【ワークシート、定期考査】
	3. 家族に関する法律 ～家族に関する法律を知ろう～ 【ねらい】 家族に関する法律の基礎知識を確認し、社会の一員として民法改正に対して考えることができる。			
3	・家族に関する法律の理念や背景を理解する。	知 ②	★	・婚姻・夫婦・親子・相続など家族に関する法律について理解している。 【ワークシート、定期考査】
4	・家族法クイズを通して家族に関する法律の基礎知識を理解する。 ・近年の民法の改正点を理解し、選択的夫婦別姓制度について協議する。 ・振り返りを記入する。	思 ①	○	・名字の在り方について、メリット・デメリットを整理し、時代や社会の要請に応じた解決策を構想して考えている。 【ワークシート】

5	3. 自立と共生 ～自分を見つめ直そう～ 【ねらい】自分の強みや弱みは何かを知り、自立に向けてどのように準備していくかを考えることができる。		
	・自立度チェックを行い、自己の自立に関する問題点を整理する。 ・「ジョハリの窓」を通して、自己を客観的に見つめ直す。 ・振り返りを記入する。	思 ② 主 ②	○ ・4つの自立の意味を知り、青年期は今の自分を見つめ、自立に向けてどのような準備をするとういか考えることができる。 【ワークシート】 ・主観と客観の両面から自分自身を分析し、肯定的な自己概念を持って「なりたい自分」に向けて問題を見いだして課題を設定し、課題解決に主体的に取り組もうとしている。 【ワークシート】
6 ・ 7 （ 本 時 7 ／ 7 ）	4. ライフキャリア ～職業生活と家庭生活について考えよう～ 【ねらい】身近な社会人へ仕事についてのインタビューを通して男女が協力して、職業生活や家庭生活の両立を図ることの重要性について考え、これからの生き方を考えることができる。		
	・仕事に就く意義について考える。 ・さまざまな働き方の特徴を理解する。 ・家事労働や職業労働の意義について理解する。	知 ③	★ ・就業形態別の特徴や働き方改革の取り組みについて理解している。 【ワークシート、定期考査】
	・身近な働く人へのインタビューを活用してグループ交流を通して、様々な人々の職業に対する考え方や働き方を知り、自分らしいライフキャリアの形成について考える。 ・振り返りを記入する。	思 ③	○ ・家族や職場で相互に協力し合って家庭や社会を築くことの重要性について理解を深め考え、自分らしいライフキャリアの形成について考えをまとめることができる。 【ワークシート】

4 学習活動と評価方法（学習指導案）

科目名	家庭基礎		指導クラス	2年 電気工学科（男子20名）	
単元名	第2章 自分らしい生き方と家族		使用教科書	家庭基礎 ☆気づく力築く未来（実教出版）	
本時の主題	4 ライフキャリア ～職業生活と家庭生活について考えよう～（7時間目／7時間）				
指導観	近年の高卒求人は『超』売り手市場となっており、多くの企業の中から1社に絞り込んで就職先を選択しなければならない状況になっている。職業生活の在り方や結婚・子育てと働き方、家族・家庭や社会とのかかわりなど、生涯を見通した生き方を考えた上での職業選択ができるようにさせていきたい。家族や異世代への聞き取り調査を通して各発達段階の生活実態や課題について互いの立場の理解に努め、職業生活と家庭生活の両立について考え、生涯を見通す視点にたって自己の生き方や価値観について思考を深め、自分らしいライフキャリアの形成に向けて実践することを考えさせたい。				
本時の目標	身近な働く人へのインタビューを活用して、自分らしい生き方や働き方を考えよう。				
選	指導内容	生徒の学習活動		評価規準と評価方法	指導上の留意点
導入 5分	本時の学習内容と目標の確認	・本時の学習課題を確認し、学習の見通しを持つ。 1 働く目的や理想の仕事に関する意識調査結果を確認しよう。 ・働く目的や理想とする仕事に対する多様な捉え方を共有する。			・冊子「やりたい」「なりたい」から始めようを活用
展開 40分	○職業インタビューを活用して働くことについて考える 《ジグソー学習》 Ⅰ 同世代交流タイム Ⅱ ライフキャリア考察タイム	2 各年代に分かれ、働くことに関するインタビュー結果を交流し、①～③について考察しよう。 ①働く意義や目的 ②仕事を継続していくために考えること ③職業生活と家庭生活の両立に向けての考えや取組み ○予想される生徒の反応 ・インタビュー内容を班で共有し、各年代の働く様子をイメージする。 ・各年代ならではの仕事に対する考え方の特徴がある。 3 各年代の働き方をもとに、生涯を見通した職業選択をするために大切にすると良いこと・重要なことを交流し、キーワードを発表しよう。 ○予想される生徒の反応 ・仕事を取り巻く環境や今働いている人達が直面している課題に気づく。 ・職場や家族間での協力が欠かせない ・ライフステージに応じて働き方を見直すことも大切である。			・事前課題 「身近な社会人への仕事インタビュー」 ・20歳頃:社会人2～3年 25～35歳頃:成人期（子育て世代）、 45～55歳頃:壮年期（保護者世代） 65歳以降:高齢世代 の4班構成で交流する ・交流結果からキーワードを発表ボードに記入し、発表させる

	○自分らしいライフキャリアの形成に向けて考える	4 どのような働き方をして、どのような自分になりたいか考えをまとめよう。 ○予想される生徒の反応 ・長く働き続けられるようワーク・ライフ・バランスを大切にして、より良いと思える人生に向けて家族で協力しあうことを大切にできる人になりたい。	評価規準【思③】 記録に残す評価 自分らしいライフキャリアを形成するための考えをまとめている。 〈評価方法〉 ワークシート、発表 〈Aの例〉 より良い人生の実現に向けて、ワーク・ライフ・バランスの視点から考えをまとめることができている。	〈Bを実現するための手立て〉 ・キーワードを参考に、仕事のやりがいや楽しさで共感できたことや仕事の大変さからどんな対策が必要かなどを考えていくよう助言を行う。 〈Cへの手立て〉 ・インタビュー結果の高校生へのメッセージを確認させ、考えられるように助言を行う。
まとめ5分	本時の振り返り	・本時の学習内容を振り返る。 - 単元を貫く課題に対する考えをまとめる。 (振り返りシートを記入する。)	指導に活かす評価	

□工夫している点

家族や異世代への聞き取り調査を通して、各発達段階の生活実態や課題について互いの立場を理解させ、生涯を見通す視点にたって、自己の生き方や価値観、働き方や人との関わり方などについて思考を深め、自分らしいライフキャリア形成を考えさせた。
--

□実践後の評価結果

	学習活動における 具体的評価規準(B)	「十分満足できる」と 判断される状況(A)	「努力を要する」と 判断される状況(C)
評価	評価基準【思考・判断・表現】 ・自分らしいライフキャリアを形成するための考えをまとめている。	・より良い人生の実現に向けて、ワーク・ライフ・バランスの視点から考えをまとめることができている。	・職業生活の在り方を自分事としてイメージできず、考えをまとめることができない。
生徒の状況	・生涯を見通したライフキャリアの実現に向けてワーク・ライフ・バランスの視点で考えてはいるが、自身の生活の充実に留まり、家族や社会との関わりについて考えを深めることができていない生徒もいた。	・多くの生徒が、自分のためだけでなく、家族や誰かのためにもワークライフ・バランスを大切にすることを考えられていた。	・ライフキャリア考察タイムに自身が担当した年代の報告に責任をもって、積極的に話し合いに参加する姿勢が見られない。学習内容に関心をもつことが出来ず、将来像を真剣に考えようとしない。

記 述 例	・少しでも長く働くために、小さい ことでもいいからやりがいを見つ けたり、私生活との両立を考えて いきたい。	・自分は、一番に家庭を大切にしたい と思っているので、仕事だけでは なく家庭に力を入れていけるよ うにしていきたい。自分のために なる、周りのためになる働き方を して頼られる自分になりたい。	・自分は今のところ就職です が、この仕事がやりたいと かが無く、適当な考えでいま す。これが良いと思う仕 事を見つけるために周りの 評価を聞いたりして就職し たいと思った。
	43.2%	51.4%	5.4%

5 成果と課題

□成果

- ・導入で、職業観に関する世論調査と多工生のアンケート結果を比較することにより、興味深く学習に参加し授業全体への関心を高めることができた。
- ・班で年代毎に分かれて職業インタビューを実施し、持ち寄ることで、生涯を見通してライフキャリアが考察できた。年代毎にインタビューしてきた内容を伝え合うことで、同世代交流がより活発になり、職業生活と家庭生活の両立への理解が深められた。更に、異なる背景や経験を持つ人々へ直接、話を聞くことができ、多様な価値観や生き方の気づきへ繋げることができた。このことにより、生涯を見通した自分らしいライフキャリアの実現に向けて、深く考える契機をつくることができた。
- ・ライフキャリア考察タイムで出てきたキーワードやそのキーワードを導き出した理由を総括して、どのようにまとめることができるかをクラス全体で考える時間を取ったことで、発表内容の要点が再確認できた。クラス全体で「継続は力なり…何事も続けることで成果が得られ、道が開かれ次へと繋がる」と、将来どんな人になりたいかやどのように人生を歩んでいきたいかなど考えることができた。

□課題

- ・1時間で抑えるには時間が足りなかった。導入を丁寧に進めたことや同世代交流タイムで交流シートの記入に手間取る生徒がいたこと、意見交流が活発になり考察に時間を要してしまったことなど様々な要因から、ライフキャリア考察タイムのグループ発表までになってしまった。また、グループワークの進め方をスライドで示して説明しているのだが、何について交流するのか理解できていない生徒もいた。授業の時間配分を考え、導入部分を簡潔にすることや例を示しながら丁寧に指示すると良かった。
- ・働く目的について世論調査項目に準じてアンケートを取ったのだが、働く＝お金をもらう為は当前のことであるので、お金をもらうこと以外で働く目的を考えさせることや得た収入を何に何のために使うのかを考えると違った結果が得られたのではないかと。アンケートを取る目的や意図を明確にして、効果的なデータ収集を考える。
- ・身近な働く人へのインタビューから考察を深める学習であり、インタビューの回答内容に差が出ないように事前学習（インタビューの準備）をおこない、回答者へ深掘りして質問することを意識させたり、ジグソー法のエキスパート学習で回答不足を補い合うようにした。しかし、インタビューで得られる情報の質が回答者側に起因するものもあり、端的な回答から深い洞察を引き出すことが難しい生徒もいた。事前に、インタビューの記録状況を確認し、状況によっては、インタビュー内容を補う補足資料の準備を検討することが必要である。生徒からどのような考えが出てきそうかを想定し、多様性を認める柔軟性や適応力の育成とともに、譲れないものや不変のものを抑えることで、キャリアの持続可能性を高めていく指導へ導いていくことを心がける。